

泉佐野泉南医師会圏域

**医療と介護・多職種連携
に関するアンケート**

調査結果

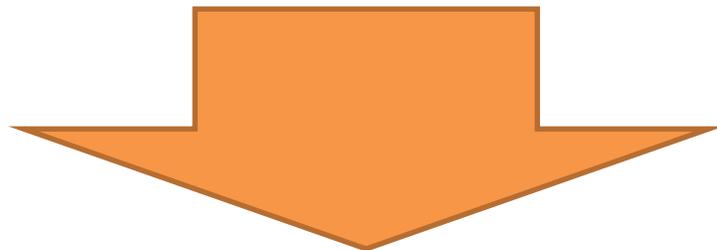
〔ケアマネジャー〕

《在宅医療円滑化ネットワーク事業》

泉佐野泉南医師会

1. アンケート調査の目的

- 高齢化の進展に伴い医療と介護の双方を必要とするシームレスな医療提供体制の整備が必要
- 「共通認識」を持つことは、この泉州地域でいつまでも暮らし続けたいと願う高齢者にとってきわめて重要
- 高齢者一人ひとりのライフステージにあった「地域包括ケア体制」の構築の実現に向けた課題抽出



関連する職種にアンケート調査を実施

2. アンケート調査の概要

1) 実施状況

○実施期間	平成25年1月7日～1月19日
○調査基準日	平成25年1月1日
○調査方法	郵送による配布・回収及び無記名調査
○調査対象者	泉佐野泉南医師会圏域の ・医師(診療所医師) ・歯科医師 ・薬剤師 ・病院地域医療連携室(MSW) ・介護支援専門員(ケアマネジャー) ・訪問看護ステーション ・地域包括支援センター ・行政

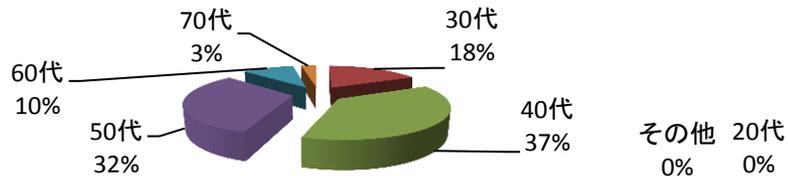
3.アンケート回収状況と回収率

	有効回収数 / 配布数	回収率
医師(診療所医師)	105 / 158	66.45%
歯科医師	61 / 113	53.98%
薬剤師	60 / 97	61.86%
病院地域連携室	17 / 27	62.96%
ケアマネジャー	100 / 123	81.30%
訪問看護ステーション	12 / 19	63.15%
地域包括支援センター	4 / 4	100%
行政	7 / 7	100%
合計	366 / 548	66.79%

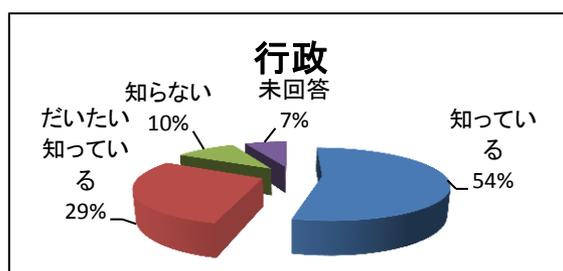
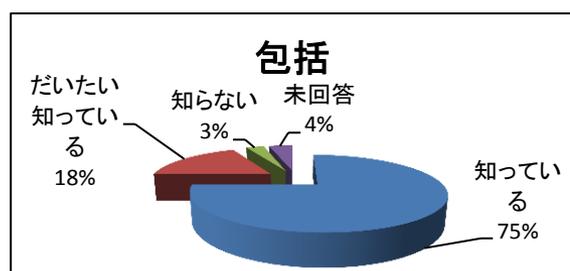
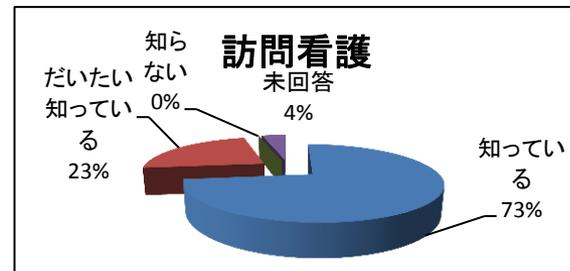
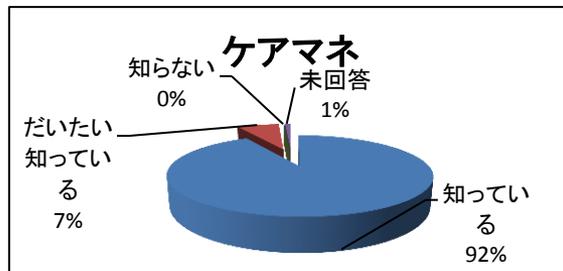
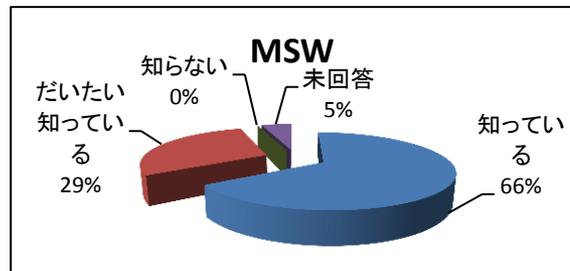
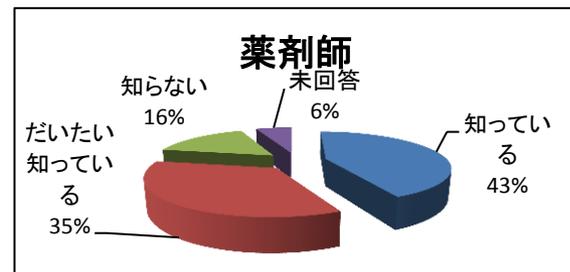
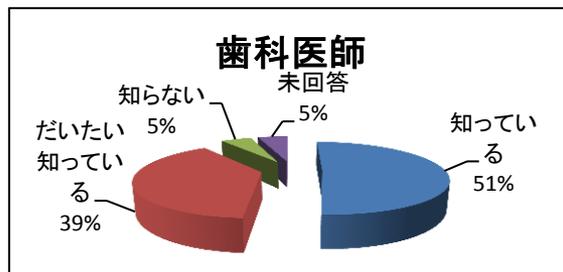
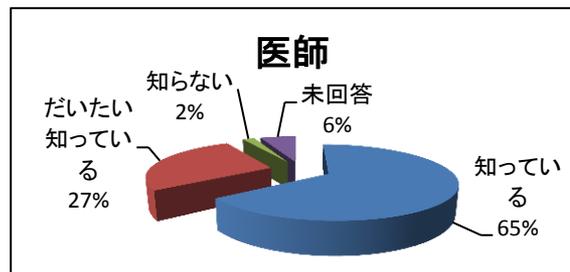
アンケート結果

1) あなたの年齢をお聞かせください。

ケアマネの年齢については、40代(37%)、50代(32%)と合わせて70%近くを占めている。

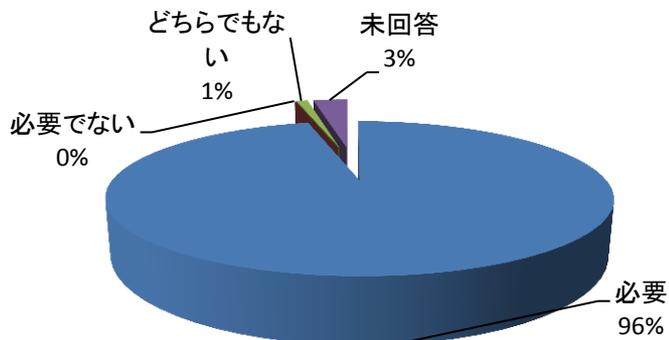


2) 在宅医療・介護の連携において、他職種の役割を知っていますか。



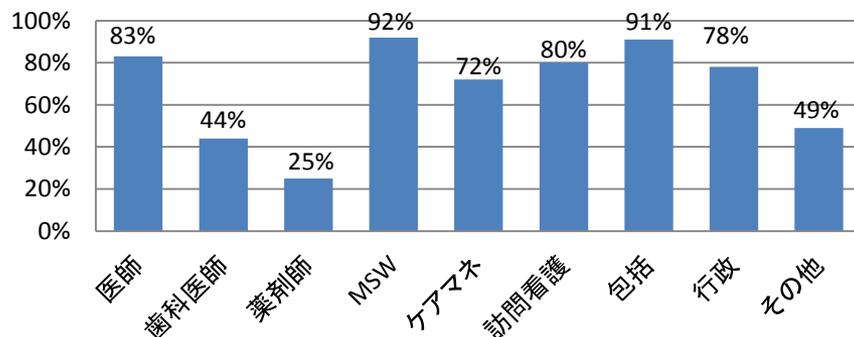
他職種の連携における役割については、ケアマネはすべての職種の役割について「知っている」「だいたい知っている」と答えている

3) 在宅医療・介護の業務をする上で多職種との連携は必要と思いますか。



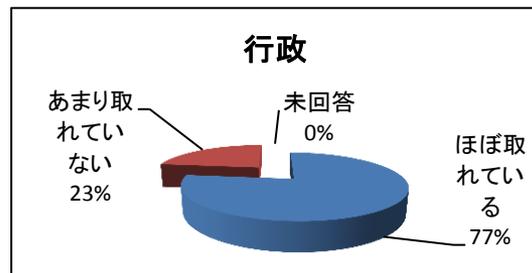
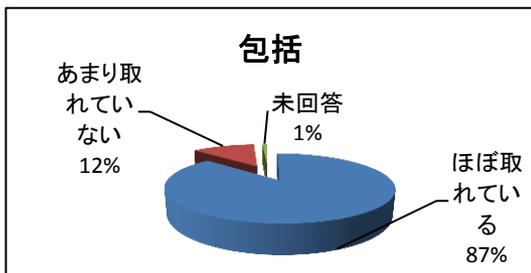
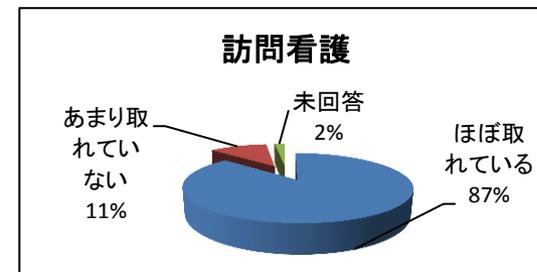
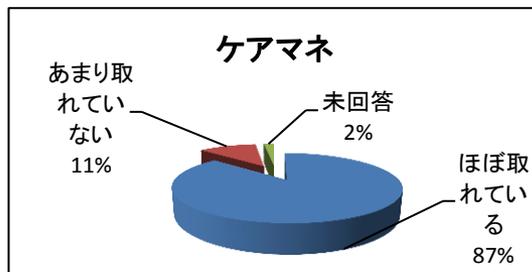
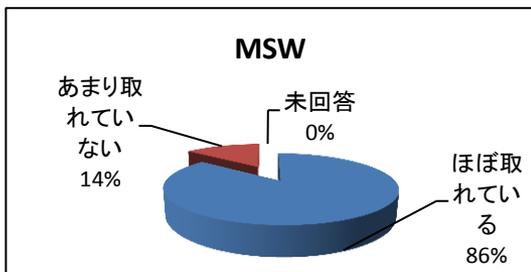
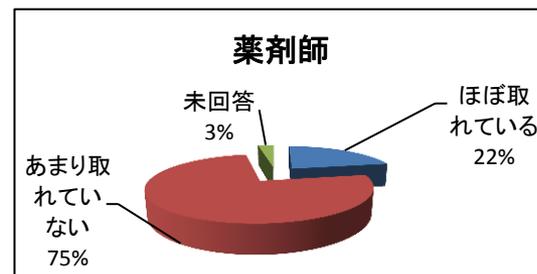
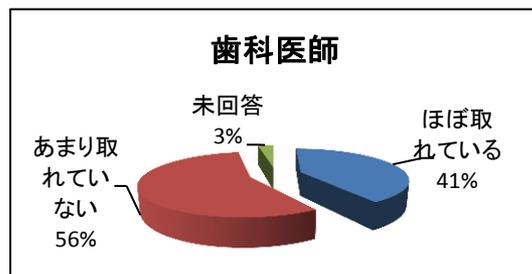
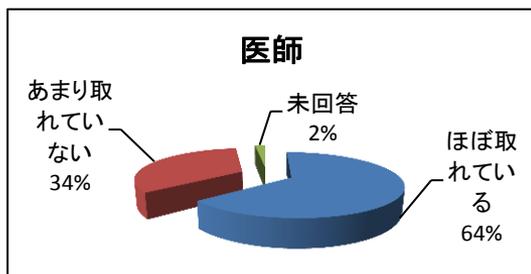
96%のケアマネが「必要」と答えており、「どちらでもない」と答えたケアマネは、1%であった。また、「必要でない」としたケアマネは、1人もなかった。

4) どのような職種と連携していますか。



ケアマネジャーは歯科医師、薬剤師以外の職種とは、連携が進んでいる。中でも、MSW(92%)、包括(91%)、医師(83%)、訪問看護(80%)と8割以上のケアマネが連携している。

5) 多職種及び他職種との連携においてお聞かせください。



多職種及び他機関との連携においては、歯科医師、薬剤師とは半数以上のケアマネは連携がとれていない。しかし、他の職種とは、連携が進んでいるといえる。

《阻害要因》

診療所医師

- ・在宅診療等に熱心なDr.とそうでないDr.では連携の取り方がまったく違ってくる。
- ・こちら側の知識不足。
- ・診療時間内は、連携が取りづらく、時間外に限定されるのでアポイントが取りづらい。

歯科医師

- ・連携できる時間がわからない。
- ・訪問歯科医院の把握ができていない。
- ・利用者の疾患の多くは内科、外科、循環器等が大きく占めていて、その方面の連携を重視してしまう。

薬剤師

- ・関わる機会があまりなく、どういう状況で連携をとれば良いかわからない。
- ・連携方法や時間調整が取りにくい。

病院地域連携室(メディカルソーシャルワーカー)

- ・病院によってはケアマネであっても情報をいただけないところも。
- ・各病院のMSW一人あたりの管理件数が多すぎて、各ケースの認識が浅い。
- ・連携室やMSWを設置していない病院では、連携が取りにくい。

介護支援専門員(ケアマネジャー)

- ・普段から他のケアマネと関わる機会がない。
- ・同職種と連携を図るということは少ない。交流する機会が少ない。

訪問看護ステーション(看護師)

- ・業務に追われてしまい医療との連携など必要なものへの連携を重視してしまっている為。
- ・訪問看護の効果的活用を十分に知らない。病識が十分でない為予後をたてられていない為ケアプランへの位置づけが少ない。

地域包括支援センター

- ・困難事例などの開示を当事業所より働きかけていない。
- ・連携の仕方がわからない。
- ・日頃の交流が少なく相談しにくい。
- ・センター自身が包括ケア体制づくりのためにどのように専門職と関わろうとしているのか分からない。

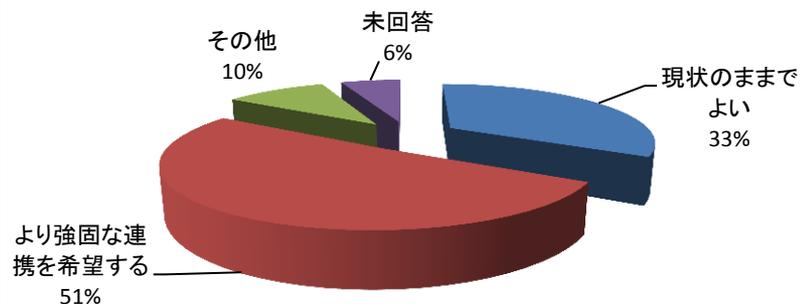
行政

- ・行政の窓口が不明確。
- ・どのような内容を相談すればよいのか迷う。
- ・どのように連携したら良いのか見えにくい(見えてない)。
- ・こちら側のアプローチばかりで行政からは何もない。
- ・保健所の役割が見えてこない。
- ・保険者としての役割が見えてこない。

その他

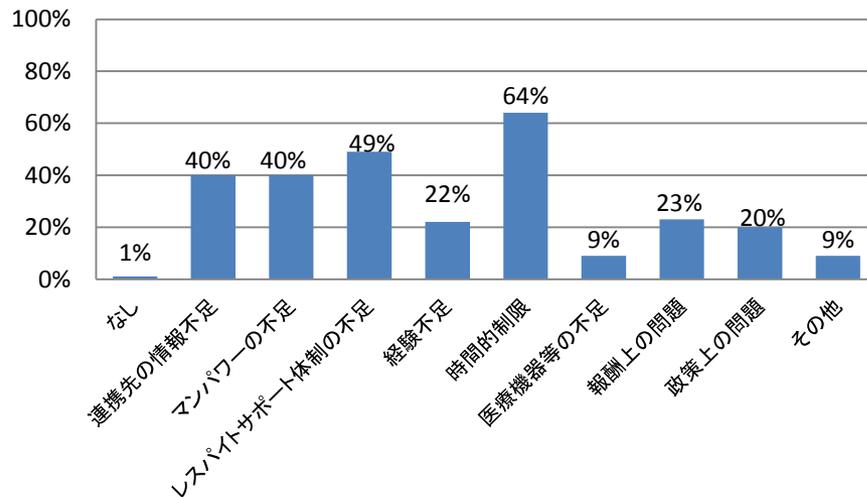
- ・(民生委員)担当地区の民生委員さんの名前がわからない。
- ・(病院医師)病院の方針なのか勤務医の意識なのか連携の程度が大きく異なり、ケアマネジャーに対して病状の説明を拒否する医師も複数名います。

6) 今後の連携についてお聞かせください。



今後の連携については、33%のケアマネが「現状のままでよい」としているものの、51%のケアマネは「より強固な連携を希望する」としている。

7) 在宅ケア（医療・介護）について、できにくい阻害要因について、お聞かせください。



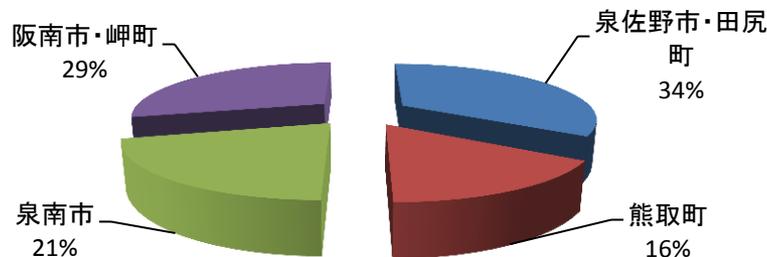
在宅ケア（医療・介護）のできにくい阻害要因については、「時間的制限」が64%、「レスパイトサポート体制の不足」が49%、「マンパワーの不足」「連絡先の情報不足」がともに40%となっている。

8) 在宅医療ケアに係る連携を構築する上での問題点や課題などをお聞かせください。

【抜粋】

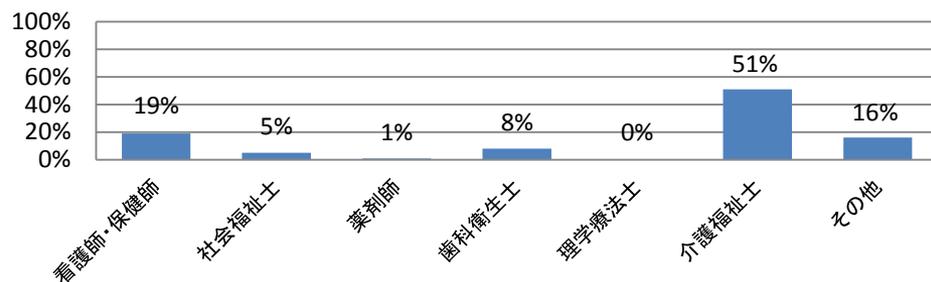
- ・ 貧困による問題。
- ・ 地域の資源不足、社会資源の情報不足。
- ・ 緊急時の対応が困難。
- ・ 関連機関とのカンファレンスの時間調整が困難。
- ・ 連携にあたっての業務的な役割の明確化。
- ・ 家族(介護者)の在宅ケアについての認識。
- ・ 医療側の診療時間の制限(Dr.の時間の制限)、在宅診療の医師が少ない。
- ・ 調整後のケアマネの質の向上、医療知識の不足。
- ・ 在宅ケアについては、急変時などの不安を家族が訴える事もあり、24時間対応訪問サービス事業所がありません。
- ・ 行政の質の問題。
- ・ 在宅を維持するための緊急時のショートステイ不足。
- ・ 在宅医療ケアに関わる人はまず相談援助技術を学ぶべきだと思います。
- ・ 訪問介護員の研修不足。
- ・ 地域全体の連携の為の資料、連絡の取り方の統一ができればよいと思います。

9) あなたの開業または所属している医療機関若しくは事業所の所在地を教えてください。



「泉佐野市・田尻町」(34%)、「阪南市・岬町」(29%)、「泉南市」(21%)、「熊取町」(16%)であった。

10) ケアマネになる前の出身職種をお聞かせください。



(その他)

准看護師、鍼灸師、生活相談員、相談員、社会福祉主事、ヘルパー、支援相談員、施設相談員

11) 経験年数をお聞かせください。

○ケアマネジャーの経験年数

年数	1年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年	10年	11年	12年	13年
人数	3	7	9	3	12	9	12	9	9	11	3	8	4

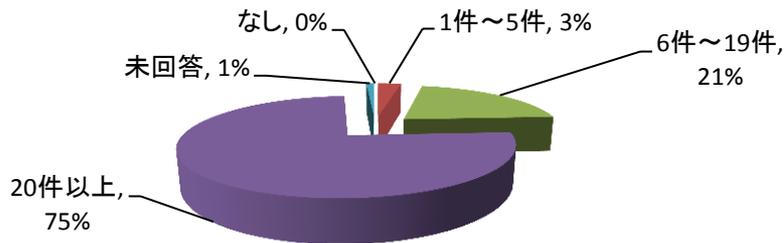
※未回答2

○ケアマネジャーの前職の経験年数

年数	1年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年	10年	11年	12年	13年
人数	0	2	1	1	15	15	11	13	3	12	1	3	2
年数	14年	15年	16年	17年	18年	19年	20年	21年	22年	23年	24年	25年	30年
人数	3	1	0	2	3	0	5	0	0	0	0	4	1

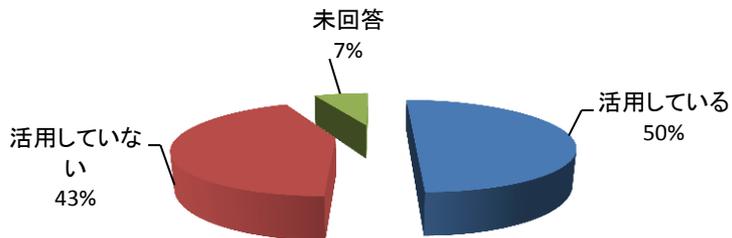
※未回答2

12) 担当件数している件数を教えてください。(報酬に関わらず、月平均)



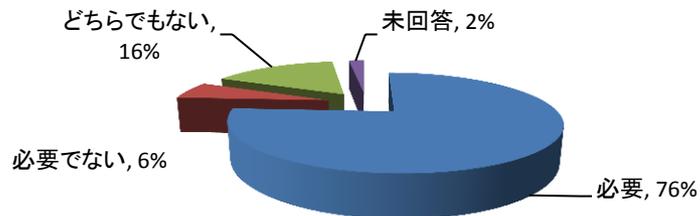
ケアマネが担当している件数については、「20件以上」が75%と最も多く、次いで、「6件~19件」(21%)、「1件~5件」(3%)となっている。

13) ケアマネタイムを活用していますか。



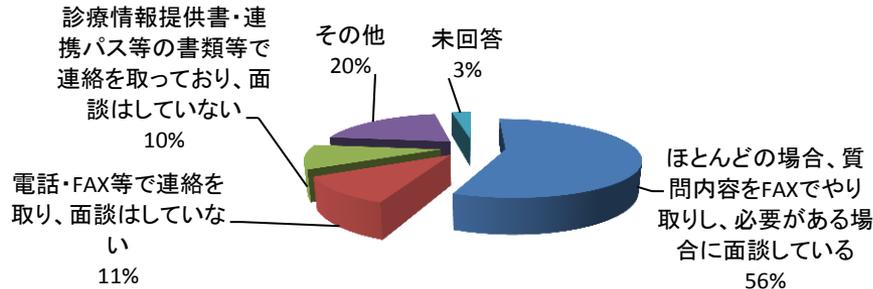
ケアマネタイムの活用については、「活用している」ケアマネジャー(50%)と「活用していない」ケアマネジャー(43%)は、ほぼ半数である。

14) 多職種と連携する場合、情報を共有するためのツール(連携シート等)が必要と思いますか。



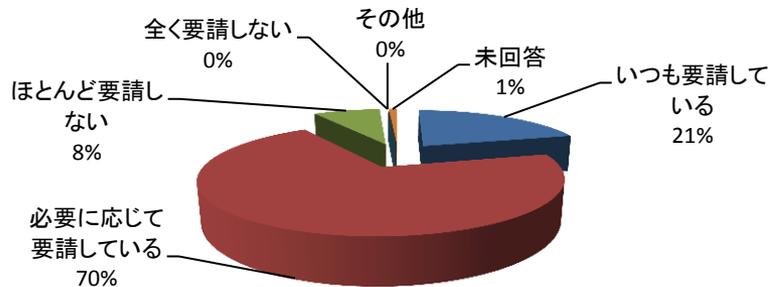
連携シート等については、76%のケアマネジャーが「必要」と答えており、「必要でない」としたケアマネジャーは6%に止まっている。

15) 現在の連携方法についてお伺いします。



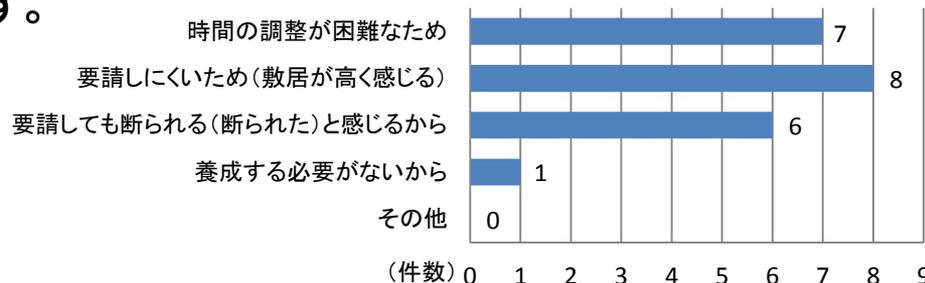
現在の連携方法については、56%のケアマネが「必要がある場合に面談している」と答えており、「電話・FAX」「診療情報提供書・連携パス等」により「面談していない」と合わせて21%のケアマネが答えている。

16) サービス担当者会議を開催するとき、多職種に参加の要請をしていますか。



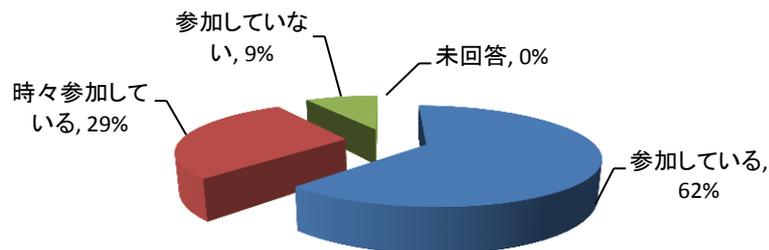
サービス担当者会議開催の多職種への参加要請については、「いつも要請している」と答えたケアマネは21%で、「必要に応じて要請している」ケアマネは70%であった。また、8%のケアマネは「ほとんど要請しない」と答えている。

17) 問16)で「ほとんど要請していない」「全く要請していない」お答えした方にお尋ねします。



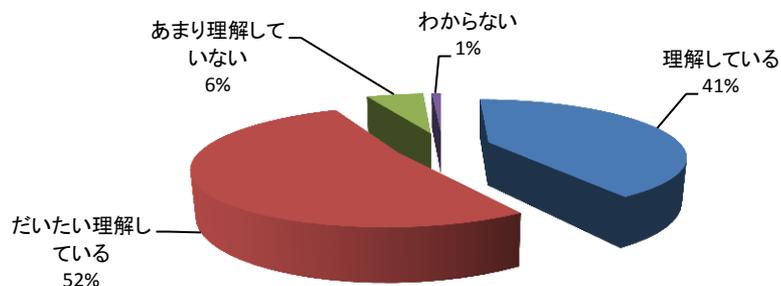
「要請しにくい(敷居が高く感じる)」との意見が8件と一番多く、「時間の調整が困難なため」が7件、「要請しても断られる(断られた)と感じるから」が6件となっている

18) 病院が開催する退院前カンファレンスに参加していますか。



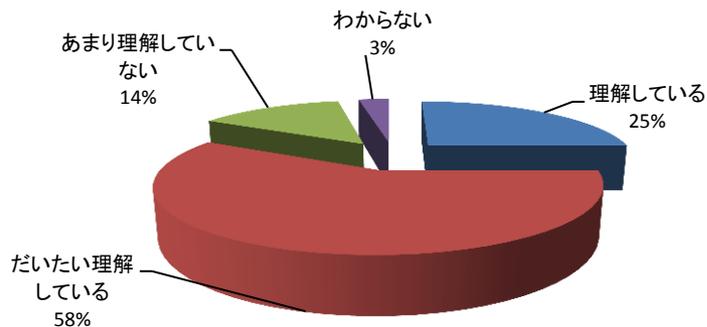
病院が開催する退院前カンファレンスには、「参加している」(62%)、「時々参加している」(29%)で、合わせて89%のケアマネが参加していると答えており、「参加していない」と答えたケアマネは9%であった。

19) 地域包括支援センターの活動を理解していますか。



地域包括支援センターの活動を「理解している」(41%)、「だいたい理解している」(52%)で、合わせて93%のケアマネが「地域包括支援センターの活動を理解している」と答えている。また、「あまり理解していない」(6%)、「わからない」(1%)と、合わせて7%のケアマネが理解していないと答えている。

20) 地域包括ケアシステムについて理解していますか。



地域包括ケアシステムについては、「理解している」(25%)、「だいたい理解している」(58%)で、合わせて83%のケアマネが「地域包括ケアシステムについて理解している」と答えている。また、「あまり理解していない」(14%)、「わからない」(3%)と、答えたケアマネは、合わせて17%であった。

★ 他の職種に対してのご意見・ご要望（抜粋）

① 診療所医師に対して

- ・もう少し連携しやすくしてほしい（連携できる手段や時間帯に制限あり）。
- ・主治医意見書にサービス利用による改善の見通しで、期待できるにチェックした場合、特記すべき事項に具体的に記載して頂きたい。（通所サービス利用での注意事項や改善項目等）。
- ・介護保険制度をもっと理解してほしい。
- ・在宅診療を積極的に行ってほしい。
- ・要望として医療側から指導、連絡等くれると関わりやすい。
- ・わかりやすい表現や言葉で情報を伝えていただきたい。
- ・患者さんも一生活者であり、その生活を支えるために、医療的な配慮や注意事項の情報収集の大切さを理解していただき、CMとの連携に協力をお願いしたい。

② 歯科医師に対して

- ・要望として医療側から指導、連絡等くれると関わりやすい。
- ・認知症の方へのケアの充実、ニーズにこたえて欲しい。
- ・介護保険制度について理解してほしい。
- ・現在連携した経験がないため、どのように連携すべきなのか具体的に知れたらと思う。
- ・口腔ケアの必要性をもっと知らせてほしい。
- ・介護保険制度への理解。
- ・口腔機能訓練のできる体制を増やして欲しい。
- ・認知症の方の治療方法をどのようにされているのか、どんな人ができるのか。
- ・積極的にケアマネジャーに関わっていただきたい。
- ・ケアマネジャーの役割を理解しご協力いただきたい。

③ 薬剤師に対して

- ・もっと居宅療養管理指導を充実させてほしい。
- ・在宅において薬剤師と連携をとる機会がない。
- ・どのようにして連携をとるのか方法が見つからない。
- ・ケアマネジャーだけで聞きに行っても服薬の副作用などいろいろなことを教えていただけるのか。
- ・独居で認知症がある人の薬剤管理方法とは。
- ・利用者様によっては自己判断で薬をやめてしまう方もいます。本人に詳しく説明して頂けるとありがたいです。薬の量が多い方で分包していない人は、絶対飲み忘れてはいけない分だけでも分包できませんか。
- ・独居や認知症の方の服薬方法など、大切な事項があればキーパーソンやケアマネジャーへ伝えてもらいたい。
- ・意見交換会、在宅医療情報の共有や情報提供。

④ 病院地域連携室に対して

- ・入院中の方から直接、相談される事が多くあります。介護が必要と思われる方には、連携室から積極的なアプローチをしていただきたい。
- ・退院時カンファレンスを必ず開催してほしい。
- ・退院時のカンファレンスに主治医の先生も入っていただけるよう調整をお願いします。
- ・退院にあたって在宅復帰ができるのか？適切な施設の選択や施設の把握ができていない。
- ・MSWとの交流会にて意見交換でき有意義であった。お互いどのようにしたらより連携をとりやすくするには意見交換は必要だ。
- ・病院からの情報発信を定期的にしてほしい。

★ 他の職種に対してのご意見・ご要望（抜粋）

⑤介護支援専門員に対して

- ・インフォーマルなサービスも組み入れたプラン作りが必要なのでは...公的サービスには限界がある。
- ・様々な社会資源を知り、利用者のニーズに応えられるよう介護保険を熟知して日々知識を得るツールが必要。
- ・CMが情報をどれだけもっているかがその利用者の方の支援に大きな差をつくってしまうということを実感、どのCMでも連携等の知識が同じになれるよう、学習を続けていくことが大切だと思います。
- ・ケアマネ会の集いで知り得た情報の共有を求めます。
- ・研修の機会を多く持ち、参加する。
- ・交流の場を作っていけるようにしていければと思う。

⑥訪問看護ステーションに対して

- ・24時間対応してほしい。
- ・ケアマネ等の職種に医療情報等をわかりやすい表現で説明してほしい。
- ・訪問看護さんが受けるDr.の指示書をケアマネにも共有してほしい。
- ・ケアマネジャーとの交流の機会を持ってほしい。
- ・ターミナルの場合や医療行為が変更や追加などの支援のタイミングや予後などアドバイスしてほしい。

⑦地域包括支援センターに対して

- ・活動状況がわかりやすいように事例的な事をもっと紹介してほしい。
- ・困難事例にもっと積極的にかかわってほしい。
- ・もう少し柔軟に対応してほしい。責任回避から入る言動が見受けられる。
- ・地域の事業所との連携を密にして欲しい。
- ・ケアマネジャーの後方支援を機能的にしてほしい。
- ・現場を見に来てください。

- ・包括によりレベルの差が大きい。もっとプロフェッショナルな集団になって欲しい。
- ・地域包括ケア体制づくりに関して具体的かつ計画的なものを示して欲しい。

⑧行政(市町及び保健所)に対して

- ・市町によって事務の方法が違っていたり、解釈が変わることがある。行政間でも連携や情報共有を図ることも必要と感じます。
- ・時間外の緊急時の連絡(市町)等。
- ・介護現場の実態等を把握していない。
- ・社会資源やインフォーマルサポートの調整、情報提供、発信。
- ・制度(介護保険制度等)についてもっと地域住民に広報活動を行う。
- ・各職種共に顔の見える関係を築くための交流会が多くあればと思います。
- ・市町村の窓口で人によっては相談しても参考にならないときがあります。
- ・地域への理解を促し啓発情報発信してほしい。

⑨その他(マスコミ)に対して

- ・泉佐野泉南圏域の病院ではないですが、大きな総合病院の中には連携がとてとりにくい病院がある。MSWをとおしても回答が遅い、なるべく早い目に情報等いただきたいが担当医によってとても遅れてしまうことが多いので総合病院とうまく連携を取る方法があればと思う。
- ・(ショートステイ)重度の利用者の受け入れをしてくれる医師会施設があれば教えてほしい。